



2024.1.25

Phone 63-2038

Fax 63-2034

## 子どもたちはいろんな夢や目標をもって3学期をスタートしました！

3学期の始業式や誕生会で、子どもたちは自分の夢や目標を語ってくれました。(^^)v  
年長さんの中では、小学校に入学するので、勉強を頑張りたいとか縄跳びを頑張りたいなど。将来の夢では警察官になりたい、警察官になって白バイに乗りたいなどと語ってくれました。

## 傾聴力はコミュニケーションの原点



「聴く」ためには、「耳」+「目と心」を使わなければなりません。

親子はそれぞれの姿を映す鏡ですから、「ウチの子は人の話をキチン

と聴いていない」と感じて嘆く前に、ご自身が子どもの話をキチンと聴いているか、また夫婦の会話が成立しているかを確認してみてください。

子どもの「何故?」「どうして?」に対して、子どもに分かりやすく説明することで、親の傾聴力を磨くことができます。

子どもに聴かれて分からないことがあったら、何でも知っているふりをしたり、知らないことを隠すために怒ったりすることなく、「どうしてだろうね。一緒に調べてみようね」と対応してあげてください。

子どもの傾聴力を磨くトレーニングは、親であるあなた自身の傾聴力をも磨いてくれるのです。

そして傾聴力は、子どもが抱いた夢を親のあなたが心の底から信じてあげるのに役立つでしょう。それによって、子どもの話す夢が、本人にとってどれほど真剣なものであるのかを理解でき、その夢を信じる決意が親の(あなたの)中で生まれるはずですよ。

大きな夢であるほど、ただ「自分のこどもだから」という理由だけでは、ときに信じきれなくなるものです。親子の絆を固め、夢を信じてあげられるよう、親も自らを磨かなければならないのです。

## 傾聴力が信じる姿勢を生み出す



人の話を聴かない子ども、人の話を聴けない大人。

傾聴力というものは、「読む」「書く」「話す」とは違い、学校の

授業で教わることはあまりありません。先天的に素質をもった人も中にはいますが、多くの場合、親や周りの大人とのコミュニケーションの中で育成されていく能力です。



## 得意分野を率先して伸ばす『向育』（きょういく）

メジャーリーグで活躍したイチロー選手は、次のように語っています。「ぼくがアメリカにきて感じたのは、体が大きいことに、それほど意味がないということ。大リーグでは僕は体が小さい方だけど、これだけの記録を達成できた。日本の子どもにもアメリカの子どもにも共通していえる大切なことは、自分のもっているものをいかすこと。そう考えられるようになると、可能性が広がっていくんだ」と。「今、自分がやっていることが好きであるかどうか。好きなら自分を磨こうとするし、常に前に進もうとする自分がいるはず」つまり、不得手と思えるようなことは一端忘れて、気にせず、好きなことや自分に向いていると思うことを、徹底的にやりなさいということです。それこそが『向育』学びに向かう力でしょうか。


「学びに向かう力」に必要な、自分の気持ちを調整する力と粘り強く取り組んだり、挑戦したりする力と仲間と協調する力が必要になってきます。じゃあそんな力をどこで培っていくか。

それは、幼稚園の保育活動の中なんです。「遊び」の中なんです。



## 野菜の収穫やゆりストア（お店屋さんごっこ）いろいろな遊びの中で

子どもたちは、園生活の遊びを通して、生きていく上で必要な事柄の基礎を身に付けていくのです。自然に触れて感動する体験（不思議だなあと思う気持ち）を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

 子どもたちの遊びを見ていたら、できることが楽しいんじゃなくて、できるようになることが楽しいんじゃないかなあ。

『できないというのは、本当にする気がないからです。』自分が全力を尽くしたことで、何らかの結果をつかんだ経験のある人は、“死ぬ気でやれば、何でもできる”という考えを理解できると思います。

